

第3回 NIE「わたしの推し記事」コンクール 小学校 最優秀賞

福田 知世さん（西宮市立夙川小学校3年）
わたしの推しは、「有人深海探査」です！

掲載記事：日本経済新聞 2025 年 3 月 18 日付朝刊

見出し：有人深海探査 途絶の危機 調査船老朽化も後継未定 資源探査や研究に影

他人に薦めたいほど、どうしてこの記事に魅力を感じるか、この記事が広まれば社会にどんな変化があるかを書いてください（600 字以内）

研究者とパイロットが深海に行けます。しんかい6500 は老朽化が進んで、後継開発の予算がないです。有人深海探査から無人探査に代わると研究者のワクワクする気持ちやパイロットのロボットアームを扱う技術が忘れてしまうと思います。海外の研究者と相のりして深海に行くとなるとますます誰でも自由に行ける場所でなくなります。

私は海が好きで研究者になって深海に行きたいです。1年生の時、海上保安庁の平洋の一般公開、2年生の夏休みにジャムステックの先生の講演会に行き、3年生の4月に大阪関西万博のサウジアラビア館で3Dプリンティングによるサンゴ作りの最新技術を見て私は考えました。地球から資源をいただくときは生態系を考え、みんなでアイデアを出して生き物のすみかやかくれ家を作ります。日本の南鳥島周辺でマンガン団塊が見つかりました。ニッケルは11年分です。日本で資源が見つかって嬉しいけど長い年月でできた資源をわずか11年でとって、今まで住んでいた深海生物のすみかがなくならないかなと思いました。万博では3Dプリンターで作ったサンゴと生きているサンゴをくっつけてサンゴの白化現象を食い止めサンゴの再生に役立てるものです。作ったサンゴを海にもどし研究者がもぐって確認します。無事育った笑顔を見ると私も嬉しくなります。地上からカメラで見るのとリアルは違うと思います。海に人が行けば海の声が聞こえ話ができる気がします。